

三ノ宮卯之助の力石を訪ねて

及び古都奈良の史跡めぐり

平成20年3月23日(日)～3月25日(火)



三ノ宮卯之助の力石をたずねて

古都奈良史跡めぐり・郷土研究会



きざらぎや険しさの増す城の階



神主の自慢の普請うららけし

東人あづまびと褒むるや西の山笑ふ

石像の面おもては蝦夷春の雨

大盤石に触るるも旅の春一日

永き日のこちら見てゐる神馬かな

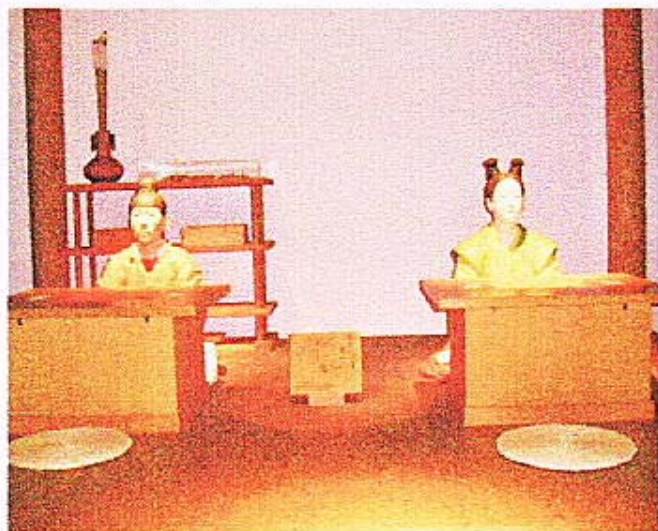
神官が神官を説く春落葉



たとふれば飛天のころも春の風

草若葉ややこしき名の媛の恋

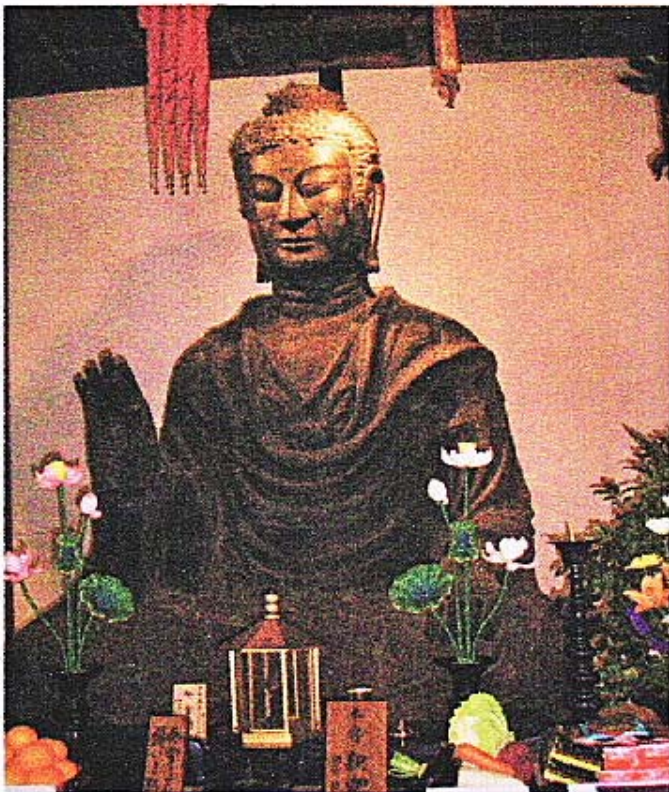
青き踏む草の匂ひを起こしつ





いにしへの石をそのまま薄霞

明日香人芽立つ玉葱吊るしをり



かげろふや薨の波に山並みに

旧跡は足にやさしく昔摺

春きやべつ最も古き大仏に



落つ先は崖の下なる椿かな

ひともとの辛夷に山の景定まる

陵の堀をはるかに春の鴨

先頭はどんどん行つて天道虫

踏青や杖にと竹の品定め

鶯や狭きが山の道らしく





手を借りて降りる古墳の長閑なり

手慣れたる姉さん被り青き踏む

遠慮しながらも古墳の土筆摘む

天天と盆地に春の没日かな

無患子むくろじの春は礎石に置かれるし

野すみれを見て来て三日後の疲れ

平飼ひの鶏啼く春の神の山

万葉の風を現に春惜しむ

宮内  
和代

